

—収蔵資料紹介—

ヒダリマキマイマイとミスジマイマイ

(資料番号：3200571・3200570)



ヒダリマキマイマイ



ミスジマイマイ

今回ご紹介する資料は、カタツムリ類など陸域を主な生活の場とする貝類のオナジマイマイ科ヒダリマキマイマイとミスジマイマイです。ヒダリマキマイマイは、その名のとおり左巻きの殻を持ち、主に関東以北に分布、ミスジマイマイは殻に3~4本のスジ模様が見られる、関東地方の平地に普通に見られるマイマイです。

ごく普通の2種の標本、じつは約140年前にE.Sモースが採集し、当館の前身となる開拓使函館支庁仮博物館に寄贈展示されていた標本だと思われる貴重なものです。

大森貝塚の発見者E.Sモースは、明治10(1877)年に腕足類の研究で来日、その後東京大学で2年間動物学の教授を勤めましたが、明治11年7月16日から約1ヶ月間来道し函館にも立ち寄り、竣工したばかりの開拓使函館支庁仮博物館を訪れました。モースは後に、開拓使の依頼を受け、採集した貝類を博物館に寄贈しましたが、明治14年の「開拓使事業報告 乾 函館支庁」(北海道立文書館蔵)の中には「函館支廳管下函館仮博物館北海貝類」の記載があり、これによりモース寄贈の貝類の種名が明らかになっています。

明治15年、開拓使が廃止、函館県が設置され、仮博物館も函館県博物館となるなど、所管変更がめまぐるしく行われ、移管に伴って博物資料も移動されたようです。引き継ぎ書類等が十分ではなく、標本ラベルと標本が異なって残されるなど、現在は「モース標本」と特定できるものは残念ながら残されていません。

しかし、ヒダリマキマイマイとミスジマイマイの2種の標本だけは、明治24年開場の水産陳列場のラベルとともに当時の紙製展示箱に入ったまま残されていました。ラベルにはオナジマイマイ科を指していると思われる「Helix …」と記載され、これは明らかに、前述の函館支廳管下函館仮博物館 北海貝類」の表の「ヘリキス」を指していることから、この2種がモースの標本であると考えられます。

この2種は北海道に生息しておらず、ラベルの採集地と思われる場所が「Tokyo」となっており、少々疑問は残りますが、この2種のマイマイが、他に寄贈されたという記録もありません。これは推測ですが、モースは来道の翌年に貝類を寄贈しており、それは道内採集貝類を一度東京へ持ち帰り分類整理し、手持ちの貝類もあわせて寄贈したと十分に考えられます。

E.Sモースの標本がいち早く函館博物館の前身、開拓使函館支庁仮博物館に寄贈展示されていたことは、あまり知られていません。モース以外にも我が国の貝類学に大きな功績を残した平瀬与一郎の貝類標本も当館に収蔵されているのですが、こちらも未だ特定できていません。今後、これら古い標本の再整理を進め、その由来を明らかにして、皆様により広く知っていただきたいと考えています。(尾崎 渉)

— 収集・収蔵 —

収蔵資料概数一覧

※平成31年3月31日現在

分類	件数	点数
博物館史	450件	1,710点
地質鉱物	2,040件	2,930点
植物	10,340件	10,680点
動物	10,650件	22,150点
考古	10,130件	584,510点
歴史	7,390件	22,880点
民俗	7,110件	21,060点
民族	7,260件	15,490点
美術工芸	6,660件	7,850点
合計	62,030件	689,260点

※一括は1件1点と計算しています。

※10件以下は四捨五入しています。

※収蔵資料データベースの再整理を実施したため、収蔵点数が大きく変動しています。

平成30年 新収蔵資料

- 和船模型 1件1点
【函館市：株式会社安倫 寄贈】
- 高森明「うずくまる」他 1件6点
【大阪府堺市：清水 久美子 氏 寄贈】
- 小川家文書 429件861点
【札幌市：小川 潤 氏 寄贈】
- 写真 他 69件110点
【横須賀市：森田 達郎 氏 寄贈】
- 掲示板 他 11件48点
【函館市：斉藤 久美子 氏 寄贈】
- 蝦夷絵 他 587件645点
【北海道白老町：故・児玉マリ 氏 寄贈】
- 露愛辞典 他 11件12点
【札幌市：児玉伊代子 氏他 寄贈】

資料保存

市立函館博物館では、平成30度から、収蔵庫の昆虫類モニタリング調査を始めました。

昆虫類モニタリングの実施は、例年行っている殺虫・殺カビ処理を補完することを目的とし、当館が保管する文化財資料に有害な飛翔性昆虫、歩行性昆虫などについて、月毎に発生状況を調査し、その結果を踏まえ、収蔵庫の環境改善と、今後の防虫・防カビ対策の実施も含めた再検討に役立てています。

実際の調査では、収蔵庫の一部に、内因性と思われる文化財害虫が少数散見され、改善を行いました。さらに、平成30年度から、ガス燻蒸（48時間密閉）に替え、噴霧式防虫・防カビ剤（4時間密閉）での防虫・防カビ処理を実施しました。

— 普及（展覧会） —

企画展

- 日本遺産「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」認定記念

北の昆布展 —昆布が支える日本の文化—

昆布は、北海道を中心として限られた地域でしか採取されない産品ですが、「北前船」などを通じて各地で広く利用されるようになりました。本企画展では、道内に分布する昆布や各昆布産地・産品を紹介するとともに、伝統的な祝いでの利用に注目して、全国各地の鏡餅やしめ飾りなどを展示・紹介しました。なお、本事業は「北の昆布展」実行委員会との共催で実施し、「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（実社会対応プログラム）日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究」の一環として行われました。

展示のほか、同実行委員会の協力により、京都の老舗料亭「菊乃井」代表取締役でNPO法人日本料理アカデミー理事長の村田吉弘氏など、多様な講師陣を迎えた「チャレンジ！昆布グルメ」や、研究報告会（11月3日開催）などの幅広い事業を実施しました。

期 間	平成30年7月10日(火)～ 9月9日(日)
開館日数	52日
後援・協力	水産庁・北海道・公立はこだて未来大学・函館国際水産・海洋都市推進機構・南かやべ漁業協同組合他
出品協力	北海道大学大学院水産科学科・函館市中央図書館・放生津八幡宮・射水市新湊博物館他
出品資料	マコンブ標本他361点
観覧者数	3,054名
関連事業	関連事業 チャレンジ昆布グルメ、産地訪問バスツアー、展示解説セミナー
担 当	保科・奥野・尾崎





北の昆布展の展示風景

収蔵資料展

■ 昭和・なつかしの暮らし展

昭和という時代にスポットをあて、ふだんは収蔵庫に眠っている昭和20年代後半からの生活用具などを展示しました。世代を超えてご覧いただき、昭和にあったモノ、昭和の暮らしを紹介しています。

期 間	平成30年9月29日(土)～ 平成31年6月2日(日)
開館日数	開催中
出品協力	なし
出品資料	炊飯器、洗濯機、蚊帳ほか 約130点
関連事業	なし
担 当	尾崎



展示されたなつかしの家電製品

■ 描かれたアイヌ —市立函館博物館所蔵資料に見るアイヌの姿—

期 間	平成30年9月29日(土)～ 平成31年6月2日(日)
開館日数	開催中
出品協力	なし
出品資料	蝦夷絵、アイヌ風俗12ヶ月 屏風ほか約60点
関連事業	展示解説セミナー
担 当	奥野



展示風景



実習生による展示解説

■ 来年の干支 亥（いのしし）期間限定展示

2019年の干支である亥（いのしし）に因み、2018年12月7日（金）～2月21日（金）の期間限定で、動物型土製品（ウリボウ）と土製品が出土した日の浜遺跡の遺物を展示しました。



動物型土製品（ウリボウ）

展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日	4/1~6/24		6/25~7/9	7/10~9/9		9/10~9/28	9/29~11/4	11/5~11/12	11/13~3/31				
ロビー			展示替え	企画展「北の昆布」 インフォグラフィックス 担当:保科、奥野		展示替え 防虫・防カビ 博物館実習			来年の干支 亥(いのしし) 期間限定展示 担当:佐藤(智)		ひな人形展示 担当:保科		
第1展示室	収蔵資料展 「市立函館博物館蔵 指定文化財そろいぶみ」 担当:保科			企画展 「北の昆布」 担当:保科、奥野ほか					収蔵資料展 「昭和・なつかしの暮らし」 担当:尾崎				
第2展示室	収蔵資料展 「博物館のどうぶつ園」			担当:尾崎					収蔵資料展 「描かれたアイヌ」 担当:奥野				
第3展示室	収蔵資料展 「箱館戦争と昔の道具」 情報ブース 屋号展示		担当:保科				収蔵資料展 「箱館戦争150」 担当:保科 情報ブース 屋号展示						

平成30年度展覧会開催日数・入館状況

	常設展	企画展	合計
開催期間	4/1~6/24 9/29~3/31	7/10~9/9	
開催日数	206日	52日	258日
有料入館者	3,856人	2,249人	6,105人
無料入館者	4,745人	805人	5,550人
入館者合計	8,601人	3,054人	11,655人

— 普及（講座） —

平成30年度 講座開催実績

【単講座】

No.	講座名	開催期日	講師	参加/定員
1	博物館旧1号館公開	5月27日(日)	—	298 / —
2	夏休み自由研究 「博物館子供探検隊」	7月26日(木)	保科	6 / 10
3	夏休み自由研究 「日本画でうちわづくり」	7月27日(金)	外部講師	4 / 10
4	夏休み自由研究 「チャレンジ! 昆布細工」	7月28日(土) 8月11日(土)	外部講師	24 / — 22 / —
5	夏休み自由研究 「黒曜石で矢じりを作ろう」	8月2日(木)	外部講師	14 / 15
6	夏休み自由研究「大森浜の貝 で標本箱を作ろう」	8月8日(水)	尾崎・奥野・佐藤	20 / 15

7	企画展共催体験講座「昆布産地体験バスツアー」	8月9日(木)	外部講師	23 / 40
8	企画展共催料理教室1 「チャレンジ! 昆布グルメ~ 羅臼昆布~」	8月11日(土)	外部講師	18 / 20
9	企画展共催料理教室2 「チャレンジ! 昆布グルメ ~日高昆布~」	8月18日(土)	外部講師	20 / 20
10	博物館旧一号館公開	8月18日(土)	—	328 / —
11	企画展共催料理教室3 「チャレンジ! 昆布グルメ~ 真昆布~」	8月25日(土)	外部講師	19 / 20
12	企画展共催料理教室4 「チャレンジ! 昆布グルメ~ がごめ昆布~」	8月25日(土)	外部講師	20 / 20
13	企画展共催料理教室5 「チャレンジ! 昆布グルメ~ 利尻昆布~」	9月1日(土)	外部講師	20 / 20
14	企画展共催料理教室6 「チャレンジ! 昆布グルメ~ 長昆布~」	9月1日(土)	外部講師	20 / 20
15	秋の美術鑑賞会 蠣崎波響	9月30日(日)	奥野	8 / 10
16	体験! 日本画教室	10月7日(日)・14日(日)・21日(日)	外部講師 奥野	7 / 8
17	青函連絡船終航30年「思い出の青函連絡船」	10月20日(土)	尾崎	中止 / 15

18	SPLレコードを聴いてみよう!	11月17日(土)	尾崎	10/15
----	-----------------	-----------	----	-------

計 881



昆布グルメに挑戦する講座参加者

【展示解説セミナー】

No.	講座名	開催期日	講師	参加
1	展示解説セミナー企画展「北の昆布展」	7月28日(土)	外部講師	24/ -
		8月11日(土)		17/ -
2	展示解説セミナー「新収蔵・アイヌ絵展」	9月29日(土)	奥野 実習生	22/ -

計 63名

【おもてなし講座等】

No.	講座名	開催期日	件数/参加数
1	展示解説	通年	13件 327名
2	バックヤードツアー	通年	6件 90名
3	見せます! お宝公開!	4/1~11/4の開館日	6件 89名
4	函館博物館見学	4/1~11/4の開館日	2件 25名

計 27件/531名

※人数は、複数講座受講者を含む延べ人数

■ 新聞掲載コラム

・北海道新聞(夕刊 みなみ風)掲載「学芸員レポート」

奥野 進「往時を物語る「もの」との出会い」(11月9日)

保科智治「娘を借金のカタに」(3月29日)

■ 道南ブロック博物館施設等連絡協議会ブログへのコラム投稿

尾崎 渉「140年前のモースの貝類標本」

佐藤智雄「先輩のメモ」

奥野 進「松浦武四郎の記した地名 箱館の由来」

奥野 進「最古の展示ケース? -モース来函140年記念の年に思う」

佐藤理夫「不思議な鳥 ルリビタキ」

保科智治・伊藤祐樹・帯川大地・工藤将真・武田仁司(公立ほこだて未来大学)「研究テーマとしての情報ブース4」

保科智治・奥村美奈代(公立ほこだて未来大学)「研究テーマとしての情報ブース4 part 2」

保科智治「松浦武四郎と高田屋嘉兵衛」

保科智治「歴史はロマン!」

印刷物発行

■『市立函館博物館研究紀要』29(電子版) 市立函館博物館2018 ※平成31年3月26日発行

■収蔵資料展『描かれたアイヌ -市立函館博物館収蔵資料に見るアイヌの姿-』市立函館博物館2018 ※平成30年11月7日発行 32頁

— その他の協力事業 —

協力事業

■函館市郷土資料館常設展示 本館所蔵、明治期の歴史・民俗資料等を展示

■函館市北方民族資料館常設展示 本館所蔵、アイヌ・北方民族資料等を展示(12月展示替え)

■函館市文学館常設展示「梁川剛一コーナー」 本館所蔵、挿し絵・彫塑等を展示

■函館市北洋資料館常設展示 本館所蔵、北洋漁業関係資料を展示

■函館市戸井西部総合センター展示コーナー 本館所蔵、戸井の板碑・土器・石器等を展示

■えさん小学校展示コーナー 本館所蔵、恵山地区出土の土器・石器等を展示

協力機関等

「北の昆布展」実行委員会、南かやべ漁業協同組合、函館市国際水産・海洋総合研究センター、今金町教育委員会、安積徹、渡辺知子、大矢京右(順不同・敬称略)

— 調査・研究 —

研究論文・コラム等

■ 研究論文等

保科智治「〈資料紹介〉館蔵「田原家文書」の紹介」『市立函館博物館研究紀要』29 市立函館博物館2019(電子版)

奥野進「描かれたアイヌ」『ナゾの陶磁器 箱館焼と蝦夷試制』石川県九谷焼美術館 2019

- 旧函館区公会堂 本館所蔵、人力車・小林写真館関係資料を常設展示（10月に撤去）
- 箱館奉行所常設展示（平成22年7月28日～）本館所蔵「エンフィールド銃」他 計6点貸出
- 函館市縄文文化交流センター常設展示（平成28年4月1日～）本館所蔵「ヤス」他 計155点貸出
- 函館市教育委員会主催「函館空港ギャラリー常設展示 函館縄文遺跡探訪—函館空港遺跡群と北の縄文文化—」（平成28年4月1日～）本館所蔵「伊藤コレクション」他 計14点貸出
- はこだてみらい館での出張展示（4月20日～5月17日）本館所蔵電化製品・動物はく製54点貸出
- 新潟県立歴史博物館・福島県立博物館・仙台市博物館「戊辰戦争150年」展（平成30年6月19日～12月25日）本館所蔵「戦友姿絵」他2点貸出
- 東京国立博物館 特別展「縄文—1万年の美の鼓動」（平成30年6月13日～平成30年9月27日）本館所蔵「角偶」ほか2点貸出
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 平成30年度特別展「海を渡る縄文人—津軽海峡文化圏の縄文」（平成30年6月22日～11月6日）本館所蔵「戸井貝塚出土品」他 計19点貸出
- 石川県立九谷焼美術館 平成30年度特別展「東北・北海道に渡った九谷焼」（平成30年7月29日～12月11日）本館所蔵「色絵千鳥皿」他3点貸出
- 財団創立30周年記念特別展「貴重な北洋の貝—高川コレクション—」（平成30年10月10日～11月30日）本館所蔵「オホーツクエビスガイ」他46点貸出
- 石川県立九谷焼美術館 平成30年度特別展「ナズの陶磁器・箱館焼と蝦夷試制」（平成30年11月9日～平成31年4月23日）本館所蔵「箱館八景茶入」他32点貸出
- 苫小牧市美術博物館 企画展「美々鹿肉缶詰工場展」（平成30年12月15日～平成31年3月3日）本館所蔵「鹿肉缶詰（複製）」他9点貸出
- 函館空港ギャラリー展示（平成31年1月17日～平成31年4月1日）本館所蔵「北前船模型」1点貸出
- 平成30年度公益社団法人函館法人会青年部会5月例会「幻の焼き物 箱館焼復活！！」（平成30年5月23日）講師派遣
- 特定非営利活動法人小呂野 学習会小呂野塾「北前船の魅力について」（平成30年12月19日）講師派遣
- 平成30年度特別展「東北・北海道に渡った九谷焼」記念講演会「描かれたアイヌ」石川県九谷焼美

術館（平成31年3月9日）講師派遣

- FMいるか「モースと函館」（5月25日放送）出演
- FMいるか「アイヌ絵を語る」（11月23日放送）出演
- FMいるか「北前船を語る」（12月放送）出演
- FMいるか「箱館戦争を語る（上）」（平成31年1月放送）出演
- 公立はこだて未来大学インフォグラフィックス展への協力・資料提供



博物館内のインフォグラフィックス展示

- 第5回国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会（平成30年5月10日）出席
- 第6回国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会（平成30年11月12日～13日）出席
- 第7回国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会（平成31年3月19日）出席
- 第4期伝承者（担い手）育成講座（アイヌ民族文化財団博物館運営準備室）宿泊研修に伴う常設展示・収蔵資料（北方民族資料館含む）等の見学 平成31年2月20日～21日
- 道南・アイヌ民族との連帯を考える市民の会主催「マウコピリカ音楽祭in函館vol.X—ピカタレラー」（平成30年9月22日）後援
- 函館アイヌ協会主催「イチャルパ（先祖供養の儀式）」（平成30年10月6日）後援

資料利用・掲載等

- | | |
|-----------------------|------|
| ■考古資料（「猪型土製品」等） | 26件 |
| ■歴史資料（「戦友姿絵」等） | 50件 |
| ■民族資料（「蝦夷錦」等） | 23件 |
| ■美術資料（「落下コロポックル人の図」等） | 18件 |
| ■自然資料（「マイヅルソウ」等） | 2件 |
| ■民俗資料（「横山松三郎湿板写真」等） | 2件 |
| ■博物館史資料 | 0件 |
| 合計 | 121件 |

資料調査・取材対応

■考古資料（「能登川コレクション」等）	12件
■歴史資料（「葦山笠」等）	15件
■民族資料（「背負縄」等）	4件
■民俗資料（「横山松三郎湿板写真」）	5件
■美術資料（「箱館焼」等）	5件
■自然資料（「モース関係資料」）	1件
■博物館史資料（「開拓使関係資料」）	4件
■その他	3件
合計	49件

博物館実習

9月7日～29日、博物館実習生として北海道大学水産学部の学生1名を受入れました。実習生は、現場での資料の保存や管理の実際、展示における実技などを学び、収蔵資料展「描かれたアイヌ」では、展示された資料の一部展示解説も担当しました。

また、関連事業として、5月11日と7月13日の2日間は北海道大学水産学部、8月10日は國學院大学、10月24日は福島大学で学芸員資格の取得を目指す学生を対象として、施設見学会を実施しました。



展示解説に聞き入る
國學院大學の学生

— 博物館短信 —

「モースと函館 北海道展」を開催

E.S.モース来道140年を記念して、図書裡会モース倶楽部、函館市中央図書館との共催で、「モースと函館 北海道展」を開催しました。5月27日は、モースも訪れた旧函館博物館1号で、9月29日～10月9日は、函館市中央図書館展示ホールで、それぞれパネルや標本を中心としたミニ展示を実施しました。

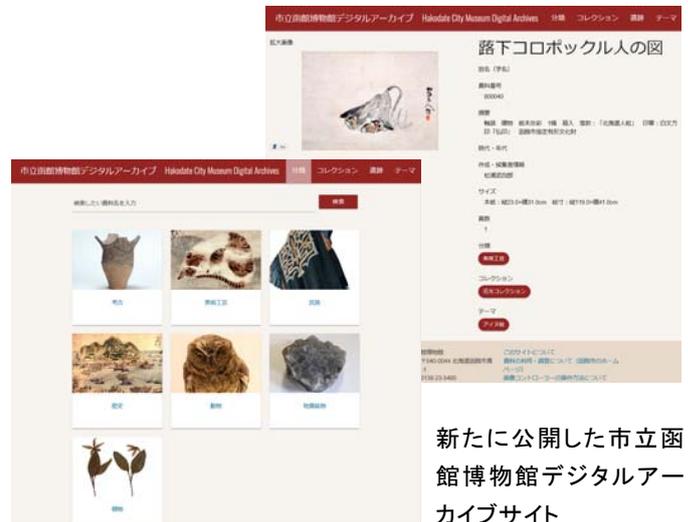
函館博物館1号では、巻頭で紹介しているモースが寄贈したと思われるヒダリマキマイマイやミスジマイマイ、函館公園出土の土器・石器などを展示しました。



中央図書館での展示作業

デジタルアーカイブサイトをリニューアル

平成27年（2015年）からホームページでの収蔵資料の公開を行ってきましたが、新たに閲覧・検索機能を強化した公開システムによるリニューアルサイト「市立函館博物館デジタルアーカイブ」の公開をはじめました。今後とも、公開点数や機能の拡充などを予定しています。



新たに公開した市立函館博物館デジタルアーカイブサイト

博物館協議会を開催

平成30年度の博物館協議会を、10月16日（第1回）、平成31年3月26日（第2回）に開催しました。会議では、平成29年度の博物館事業報告および平成31年度の事業計画など、博物館の運営に関する報告が行われ、意見が交わされました。

冷暖房対応の休憩室を設置

展示室内の冷暖房設備の不備のため、観覧者にご迷惑をおかけしていましたが、冷暖房設備を整えた休憩室を設置しました。平成30年度の冬も寒い日が続きましたが、たくさんの利用者にご利用いただきました。

ボランティア活動

■ 古文書調査ボランティア

今年度は商工会議所役員や区会議員、函館区史編纂委員などを務めた小川幸兵衛家に関する資料1,144点を整理しました。小川は高龍寺檀家総代も務めていたことから、高龍寺に関する資料が多数含まれていました。これらの資料については、所蔵者の意向により高龍寺に納められました。また、収蔵資料展「描かれたアイヌ」に関して、詞書きなどの解説もおこなわれました。

■ 清掃ボランティア

9月26日、北海道立五稜郭支援学校のご協力により、今年度も展示室や収蔵庫内の清掃作業をおこないました。

生徒の皆さんの勤勉かつ実直な作業のおかげで各館内がきれいになりました。この場を借りて同校生徒の皆さんと先生方に心より感謝申し上げます。

アイヌの伝統儀礼イチャルパを実施



イチャルパの様子

10月6日、当館が保管するアイヌの方々のご遺骨の慰霊のため、函館アイヌ協会主催による「イチャルパ（先祖供養の儀式）」が当館横の広場で実施されました。

平成31年度企画展開催予告

■ 企画展「箱館戦争終結150」（6月12日～9月22日）

箱館戦争が終結して150年。函館の歴史に大きな影響を与えた箱館戦争を、描かれた絵画資料、文字で記録された資料、戦争で使われた軍服や砲弾などのモノ資料を一堂に会し紹介します。



平成30年度職員構成等

館長 齊藤総一 ————— 博物館協議会(委員11名)

管理担当	学芸担当
三浦正志 (主査)	尾崎 渉 (主査、自然)
山本裕子	佐藤智雄 (主査、考古)
政田 泉	奥野 進 (主査、美術・民族)
小林政人 (臨時)	保科智治 (歴史・民俗)
	佐藤理夫 (自然)
	山本泰子 (嘱託)

※ 函館市中央図書館郷土資料担当

中貝聡介 (主査)
長谷川佳代子
佐藤珠江 (嘱託)、福本衣栄 (嘱託)
奥山麻央 (嘱託)

SARANIP—サラニップ— No. 58

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

— 誌名SARANIP (サラニップ) —

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。